



No. 38  
2013 Spring

山松舎  
臨南寺

『正法眼藏随聞記』始まる

六年後、興聖寺が建立されたことを伝え聞いた懐奘は、達磨宗の衣を脱ぎ捨て道元禪師のもとに駆けつけました。道元禪師も喜んで迎え入れました。その夜のことでした。

「これから禪師様のお話があります。聞きに参りましょう」

門弟に誘われて方丈に行くのと、すでに多くの人でいっぱいです。どんなお話が聞けるのかと見ていると、壇上の椅子に上がられた道元禪師の口から、

「昔一人の僧がいた。死んで冥途に行つたところ、閻魔大王が『こやつはまだ寿命が尽きておらん。娑婆へ返せ』と言う。閻魔庁の役人は『寿命はありますが食分が尽きております』と答える。大王は『食分が尽きたのなら蓮の葉を食べさせよ』と言ってこの僧を生き返らせたさうじゃ」

懐奘は驚きました。難しい仏法の話かと思つていたらまるでおとぎ話です。

「生き返つた僧は蓮の葉ばかり食べて命を保つた。出家人は仏道を学ぶ功德によつて、命も食べるものも尽きることはないのじゃ。お釈迦様が自分の百年ある寿命を二十年縮めて後の仏弟子に残されたからで、それは尽きないのじゃ。僧は仏道修行だけに打ち込んで、衣食を求めてはならんのじゃぞ」

この話に感動した懐奘は、話が終わるとすぐに僧坊に戻り一心に書き留めました。その夜が『正法眼藏随聞記』の始まりでした。

特集

# 道元禪師ものがたり

14



## 道元禪師に弟子入りした懐奘、 禪師の説法は『随聞記』に姿を変えます

### 僧や信徒が集まってきた

興聖寺は次第に陣容を整えていきました。道元禪師が宋から連れてきた工匠の玄之の指揮で中国風の七堂伽藍が少しずつ形を現してきました。坐禅道場ができて修行にいそしむ僧たち。得度してないのが熱心な在家の信徒たち。多くの人たちが道元禪師のもとに集まってきました。

興聖寺が開かれた翌年の文暦元年(三三四)も押し詰まった年の暮れ、二人の僧が道元禪師を訪ねてきました。懐奘でした。建仁寺で会つて以来、六年ぶりの再会でした。このとき道元禪師三十四歳、懐奘三十六歳。二人とも宗教者として活気に満ちていました。

懐奘は道元禪師と同じく公家の家に生まれました。十八歳で比叡山にのぼつて出家し、天台・法相の学問を修めました。

しかし、名誉や出世を追い求める比叡山の僧たちのあり方に疑問を抱き始めた頃、母親からさとされました。

「私がお前を出家させたのは僧として高い位に就いてほしいからではありません。背に笠をかけわらじがけで歩く、俗世間と縁を切つたお坊さんになつてほしい」

それを聞いた懐奘は遁世の僧になることを誓い、再び比叡山にのぼることはありませんでした。どこか道元禪師に似た道を歩む姿が見えてきます。

### 達磨宗に入門した懐奘

比叡山を降りた懐奘は、法然の弟子の証空について浄土宗の教えを学び、奈良の多武峰にのぼつて日本達磨宗の門を叩きました。日本達磨宗は能忍がおこした禅宗一派ですが、能忍は古くから伝わる禅の書物を読破して悟つたもので、師匠を持ちませんでした。師から弟子へ受け継がれてゆく禅の伝統からは異端とされました。懐奘は多武峰で印可を受けるまでになります。

道元禪師が宋から帰国したことを耳にした懐奘は、中国の禅はどのようなものか知りたいと思ひ、建仁寺に道元禪師を訪ねて問答に及んだのです。初めは道元禪師の答えが自分の体にスッと入つてくる気がしました。懐奘はひそかに、自分の到達した境地も宋で得た仏法も同じだと喜びました。しかし問答が深まるにつれて、道元禪師の説かれる真意は別の所にあると気付きました。懐奘はすぐに自分の間違いを悟り、道元禪師に弟子入りを懇願しました。しかし、当時の道元禪師は建仁寺に仮住まいの身、「独立したら訪ねてきなさい」と約束して別れたのです。



# 三月二十三日のお彼岸には ご家族でお参りください



昼と夜の長さが同じになる春分の日を中心として、その前後三日ずつをあわせた二週間を「お彼岸」と呼びます。今年は、十七日から二十三日までの二週間です。もともとは修行に最適な時期として設けられました。

日本ではお彼岸は平安時代から公家の間で始まりました。鎌倉時代から武士にも広がり、江戸時代には庶民に普及していきましました。春分の日には太陽が真西に沈みます。西方浄土を礼拝するのにぴったりの時期として定着したようです。

「彼岸」は、迷いの世界のこの世「此岸」に対して、悟りの世界のあの世のことです。お彼岸は、亡くなった人をこの世（此岸）からあの世（彼岸）へ届ける追善供養の期間でもあります。

お彼岸には各地のお寺で法要

が営まれ、先祖供養が行われます。檀信徒の皆さんは、彼岸会施食会に参加し、家族そろってご先祖のお墓に参り、家では団子やぼたもちをお供えしましょう。

臨南寺では、三月二十日に彼岸会写経会を開き、二十三日には午後二時から彼岸会施食会を修行いたします。彼岸会施食会では、亡くなられた方の冥福を祈ってお経を上げ、先祖供養の法要を行います。当日ご都合の悪い方は、不参のご回向をお受けいたしますのでお問い合わせください。



## 寺南景 百景



## 新十両力士を育てた 鏡山部屋

毎年二月下旬になると臨南寺の境内に鏡山部屋がやってきました。鏡山部屋は大鵬関と柏鵬時代を築いた柏戸関が創った部屋。現在の鏡山親方は元関脇の多賀竜関です。鏡山親方は審判部長になり、最近はTVで時々見かけるようになりました。

その鏡山部屋から新十両が誕生したのです。鏡桜二十五歳。モンゴルから来日し、二〇〇三年初土俵を踏んでちょうど十年。親方の長男でもある三段目の竜勢とのぶつかり稽古で前に出る相撲を身につけ、幕下四枚目で挑んだ昨年十二月の九州場所四勝三敗と勝ち越し、念願の関取の座を手に入れました。

新十両として臨んだ二月初場所では見事に勝ち越し、これからの活躍が大いに期待されます。檀信徒の皆さんもお相撲さんの姿を見かけたら激励の言葉をかけてあげてください。



大阪場所では張り切る鏡桜関。



臨南寺にも鏡桜関ののぼりがはためいています。



住職  
日誌

# 「経済第一」より

# 「復興第一」に



臨南寺 住職  
大澤正道

三月十一日がまた巡ってきます。早いもので、東日本大震災の発生と福島第一原発の事故から二年が経ちます。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様の日も早い復興を心からご祈念いたします。

気がかりなのは、二年経った今も被災地の復興があまり進んでいないとは思えないことです。あちこちに津波に襲われたまま、無人の住宅が無残な姿をさらしています。整地はされてもそのまま、人っ子一人通らない道路が空しく伸びているところも多くあります。

民主党から自民党に政権が変わりました。しかし、新し

い政府は「経済第一」を掲げ、経済政策を優先させています。

「原発ゼロ」からも後退しているように見えます。このまま大震災や原発事故への関心が薄れ、風化していくのではないかと心配になります。

もう一度二年前の「復興第一」の初心に立ち戻り、被災者一人ひとりの生活再建に道筋がついて、子供たちが明るい笑顔を取り戻せるよう、そして皆さんが安心して暮らせるよう心から願っています。

合掌

## お彼岸にはお写経を

3月20日

「般若心経」の経文を筆写するお写経。一文字写すと仏様一体を刻むのと同じ功德があるといわれます。あなたも、故人の冥福を祈り、先祖を供養し、浄福を授かりませんか。随時受け付けていますので、お気軽にお申し付けください。

## お釈迦様のご誕生を祝う

4月8日

お釈迦様は生まれてすぐに七歩歩いて天と地を指差し、「天上天下唯我独尊」と言われました。神々は天上から花びらを降らし、竜王は甘露の雨を注いで祝福したそうです。花祭りにはお釈迦様に甘茶を注いでご誕生を祝い、わが子の健康やかな成長を祈りましょう。

## マトリ合同法要にご参加を

5月19日

がつしょう園マトリは、お墓の継承者がいなくても、永代供養いたします。ご夫婦や友人同士の入会も増えています。合同法要は、マトリ会員でなくてもご参加いただけます。この機会にどうぞお参りください。

## 臨南寺行事予定(三〜五月)

### ○ 彼岸会写経会

\*三月二十日

午前十時〜午後三時(受付は随時)  
亡くなられた方やご先祖を偲びながら、一文字一文字心を込めて、お写経なさいませんか? 大本山總持寺に納経させていただきます。(費用千円)

### ○ 彼岸会お墓經

\*三月二十日・二十一日

午前十時〜午後三時(受付は随時)  
どちらかご都合の良い日にお越しください。  
臨南寺に墓地をお持ちの方に限ります。

### ○ 春季彼岸会施食会

\*三月二十三日 本堂にて

午後二時〜午後三時(受付は二時三十分まで)

亡くなられた方のためにお経をあげ、先祖供養の法要を行います。ご家族そろってお墓参りにお越しくださいませ。

### ○ 釈尊降誕会(花祭り)

\*四月八日 午前九時〜 本堂にて

お釈迦様のご誕生を祝う法会です。本堂前に安置した誕生仏様に甘茶を注いでお祝いします。ご参拝の皆様にも甘茶が振る舞われます。

### ○ マトリ合同法要

\*五月十九日 午後二時〜

本堂で法話を聞いた後、マトリで亡くなられた方のご冥福を祈ります。静かなお気持ちで一日をお過ごしいただけます。



# 厄を払い福を招く弁財天祈禱会

一月十五日、新しい年を迎えて弁財天祈禱会を修しました。厄を払い福を招くこの法要、今年がよい年になりましよう願いを込めて多くの檀信徒の方がお参りになりました。法要の前に住職の挨拶や護寺会の会計報告があり、法要のあと破魔矢が授けられ甘酒が振る舞われました。



ご参拝の皆様が無病息災や家内安全を祈願。

# お釈迦様をしのぶ釈尊涅槃会

お釈迦様が入滅された二月十五日、涅槃会を本堂で執り行いました。須弥壇に涅槃図をお祀りし、供物をささげお経を誦読しました。法要のあと五色の涅槃だんごを全員でいただきました。



お釈迦様をしのび感謝を捧げました。

# 読書会

## 次は『修証義』入門編

現在読んでいる『正法眼蔵随聞記』は五月で終わります。六月からは曹洞宗の根本経典の一つ『修証義』の入門書を皆さんと一緒に読んでいきたいと思えます。道元禅師の書かれた『正法眼蔵』はお坊さん向けの書物ですが、『修証義』はそれを在家の私たち向けに短くまとめたおもしろいものです。興味のある方は寺務所にお問い合わせください。

# 墓苑をご利用の皆様へ

- 手桶を花立て代わりに使わないでください。ご使用後は必ず元の場所へお戻しください。
- お墓参り以外での駐車はご遠慮ください。境内では最徐行をお願いいたします。駐車中の事故等は一切責任を負いかねます。
- ペットを墓苑内に連れて行かないでください。
- お供物は、カラスなどに荒らされる原因となりますので、各自お持ち帰りください。
- トイレにはトイレトーパー以外は流さないでください。ティッシュペーパーは水に溶けません。ウエットティッシュや紙オムツも絶対流さないでください。

# 編集後記

花粉症の季節です。中国の汚染物質PM2.5の報道によれば花粉は大きすぎてマスクで予防できると言います。例年薬に頼っていましたが、今年はマスクで何とかしようと、2月中旬から外出する時はマスクを着けています。効果のほどはいかがなものでしょうか?(M)

# お気軽にご参加ください

## 早朝坐禅会

毎月第一土曜日  
午前六時半～ 本堂にて  
\*二月・八月は、お休みさせていただきます。

## 写経会

毎月二十日 午前十時～午後三時  
写経料・千円 椋伽林一階にて

## 『正法眼蔵随聞記』読書会

毎月第二土曜日 午後三時～  
\*二月・八月は、お休みさせていただきます。  
\*いずれも事前のお申し込みが必要です。

「ほ～っと」38号

平成25年3月

編集・発行：椋伽林「ほ～っと」  
編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

☎ 0120-667-638

TEL 06-6698-1001

FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.rinnanji.com